

## 記者会見資料

提供年月日：令和3年(2021年)7月27日  
部局名：農政水産部  
所属名：農村振興課  
係名：地域資源活用推進室  
担当者名：水谷、園田  
連絡先(内線)：3963  
E-mail：gh01@pref.shiga.lg.jp

### 「魚のゆりかご水田米」パッケージデザイン。この秋にデビュー

お米のゆりかごに赤ちゃんが守られ、育っていくイメージ。子どもを慈しみ育む温かさを意識し、ピンク色をベースにした「魚のゆりかご水田米」パッケージデザインを作成しました。



#### ○ 作成者

地域の活動組織、生産者、流通組織、企業、学識経験者からなる「琵琶湖とつながる生きものたんぼ物語推進協議会（事務局：県農村振興課および滋賀県土地改良事業団体連合会）」が作成されました。

#### ○ 今後の予定

- ・10月以降に「コープしが」から、本パッケージで販売される予定です。
- ・県事業において、京阪神の米流通業者を対象に魚のゆりかご水田現地視察ツアーを実施し、本パッケージをPRします（今秋に予定）。
- ・今後、推進協議会等で活用に向けPRを行い、更なる利用拡大を図っていきます。

## ○ パッケージデザイン作成の目的

滋賀県では、湖魚が琵琶湖と水田を行き来できる、かつての湖辺域の水田環境を取り戻そうと、堰や魚道の設置を行い湖魚が育つ水田環境を復元する「魚のゆりかご水田プロジェクト」に取り組んできました。

平成 18 年度に 40 h a でスタートした本プロジェクトも、徐々に取組面積が増加し、令和 3 年度には 182ha で取り組まれるまでに拡大しました。

本取組は、日本農業遺産に認定されている森・里・湖に育まれる漁業と農業が織りなす「琵琶湖システム」の代表的な取組でもあり、持続的な取組として発展させるためにも全国の消費者に知っていただきたいと「琵琶湖とつながる生きもの田んぼ物語推進協議会」がパッケージを作成されました。

また、滋賀県産のお米として奨励品種である「みずかがみ」や「環境こだわりコシヒカリ」のパッケージデザインとの調和にも配慮して、統一感のあるデザインを選定されました。

## ○ 琵琶湖とつながる生きもの田んぼ物語推進協議会

「魚のゆりかご水田」など、豊かな生きものを育む水田に取り組まれる活動組織や生産者、また趣旨に賛同される流通組織、学識経験者、企業で組織する団体。

(平成 28 年に発足、令和 3 年 4 月現在：26 会員)。

会 長：京都府立大学大学院生命環境科学研究科 中村 貴子 准教授

事務局：県農村振興課および滋賀県土地改良事業団体連合会

## ○ 「魚のゆりかご水田米」の説明

ニゴロブナ等の在来魚が、琵琶湖および内湖等から産卵のために遡上しやすくするよう、魚道を設置したものが「魚のゆりかご水田」になります。

さらに、生産されるお米に対して、次の要件を満足させるもののみを「魚のゆりかご水田米」として認証<sup>\*</sup>しています。

- ・環境こだわり農産物の基準で栽培し、認証されていること。
- ・除草剤を使用する場合には、魚類に影響が少ないものに限定して使用すること。
- ・中干時に流下促進（溝切）を実施していること。
- ・親魚の遡上や稚魚の繁殖が確認できること。



写真：水路を遡上するニゴロブナの群れと魚道  
(令和2年度 撮影 彦根市田附町)



生きもの観察会の様子